



深田久弥

# 山の文化館だより

令和7年  
冬

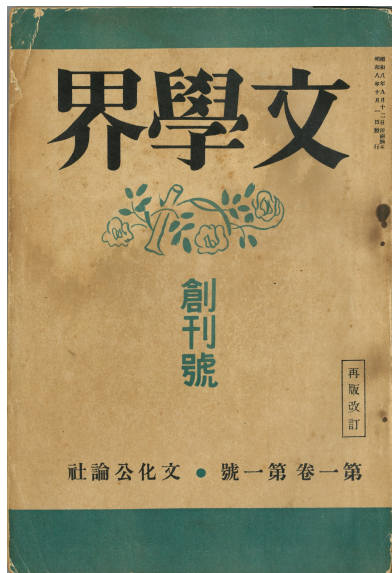
深田久弥 山の文化館  
〒912-0067  
石川県加賀市大聖寺森場町十八  
TEL 〇七六二七二一三三  
FAX 〇七六二七二一八一

『文學界』

「鎌倉文士」

深田久弥

世に言う「鎌倉文士」、深田久弥もその一人である。鎌倉文士とは何であろうか。鎌倉文学館館長富岡幸一郎氏も述べられるように、昭和八年に創刊された『文學界』に関わった文士たちをそう呼ぶようになった。その後も多くの文士たちが鎌倉に集まったが、その人々も鎌倉文士と呼ばれている。



『文學界』は昭和八年、八人の同人によって創刊に向けての準備が始まり、十月に創刊号が発行された。深田久弥、武田麟太郎、林房雄、広津和郎、川端康成、小林秀雄、宇野浩二、豊島与志雄の八人であった。発起人に



鎌倉文学館（旧前田別邸）

ついで林房雄は、「武田麟太郎、川端康成、小林秀雄、私の四人の間で創刊の相談がすめられた」と書いているが、深田久弥は、「その夜緑風荘に行ってみると、集まったのは林君に武田君に広津さんと僕きりだ（後になって川端氏が来られた）」と書いている。運営については、この八人の同人全員が編集執筆を行っていた。川端康成が創刊号の「編輯後記」に「本誌発行の計画はほとんど拍子に捗った。同人も忽ち志を同じうして集った。」また、「創刊号は林、深田、川端が当番ではあったが、皆が働いた」と書いているように同人の皆さんの意気は高く、結束は強かったよう

である。その後、昭和九年二月の第五号から里見弴、横光利一、藤沢桓夫の三人が加わり、同人は十一人になった。この同人を指して「鎌倉文士」と人は呼んだのである。これが、鎌倉文士という呼び名の始

まりである。

鎌倉文士たちは、さほど広くない街に住む利点もあり、お互いの家を探ねて酒を飲みながら、またおでん屋などに集まり酒を酌み交わしながら大いに議論を交わし、親交を深めていった。

『文學界』と鎌倉文士に焦点を当てた展示を近々始めたいと思っている。

## この一冊

『日本アルプス縦断記』と題する一冊がある。これは、一戸直蔵、河東碧梧桐、長谷川如是閑、三人の著書で、大正六年七月大鏡閣から刊行されている。それぞれの世界で著名な方々が、大正初期に、北アルプス（針ノ木峠く烏帽子岳く野口五郎く蓮華岳く槍ヶ岳く上高地）を縦走しその縦走記を執筆するだけではなく、後半部分には「登山者の心得」と題する指導的記述もある。

なんと、深田久弥はこの一冊を中学生の時買っている。そして「山の本」と題する文章の中で「田舎の町の本屋でこの本を買った時の喜びは、今も忘れられない・・・田舎の中学生には夢のような手の届かない話であったが、興奮した。中学生の時から持っている本と言え、これ一冊かもしれない。」と書いている。



## 京濱伏見稲荷神社を訪ねて

関東にお住いの会員の方から、神奈川県新丸子に変わったものがありますよと言って一枚の写真が送られてきた。何と三つの頂の横に「加賀白山遥拝所記念碑」の標柱が建っている。この三つの頂は剣ヶ峰、御前峰、大汝峰に間違いないようである。

これは見に行かねば、と思い立つてから優に二、三年は経ってしまった。令和六年十二月上京の折に尋ねることが出来た。

それは東急目黒線新丸子駅からほど近いところだった。しばらく商店の並ぶ通りを進んでいくと、右手に木の枝などがあり雰囲気の違うところが見えてきた。あった、そこには通りに面してとても大きな赤い鳥居が建っていた。お稲荷さんだ、とすぐに分かった。鳥居をくぐり、辺りを見回したが白山は見えなかった。右手にお社があり、お社の前には何体ものカラフルな狐の像が楽しそうにすわっていた。まずはお社にお参りをした。そのあと、鳥居の左側に行ってみた。少し行くとあった、ついに見つけた。富士塚があり、その隣が「白山遥拝所」だった。もらった写真通り三つの峰と手前に小さなお社があ



り、なんと大きな池もあった。位置的には違うが翠ヶ池であろう。東京を中心に富士塚は多いが、白山塚というようなものはないのではと思う。



お近くに行かれることがあれば、ぜひ尋ねてみて頂きたいものです。

## 千支の山「蛇峠」

千支の山といえ、今西錦司さんが立ち上げた十二支会が有名である。昭和三五年の子年から五巡、六十年続けられた。

令和七年は巳（蛇）年である。蛇といえ、深田久弥が最後に頂を踏んだ山が「蛇峠山」である。十二支会の六十年間のリストの中に「蛇峠山」は残念ながら見当たらなかった。今年には巳年でもあり、深田久弥を偲ぶとともに、まだ雪の残る南、北アルプスの素晴らしい展望を満喫するために、訪れてみたいものである。

## 聞こう会

会場：深田久弥山の文化館 聴山房  
時間：午後一時三十分～三時

一月十九日（日）

演題：三百名山山行記

講師：西田 博 氏

（三百名山完登者）

二月十六日（日）

演題：白山から見る日本百名山

講師：大幡 裕 氏

（深田久弥と山の文化を愛する会）

三月九日（日）

演題：世界の山スキーツアー

講師：木崎乃理恵 氏

（国際山岳ガイド）

## 読書会

会場：深田久弥山の文化館

時間：午後一時三十分～三時

一月二十四日（金）

『日本百名山』より「男体山」

二月二十一日（金）

『日本百名山』より「丹沢山」

三月二十一日（金）

『日本百名山』より「飯豊山」

ホームページもよろしく

<https://yamanobunkakan.com>

深田久弥山の文化館



山文HP